

球磨川下流域の現状と課題について

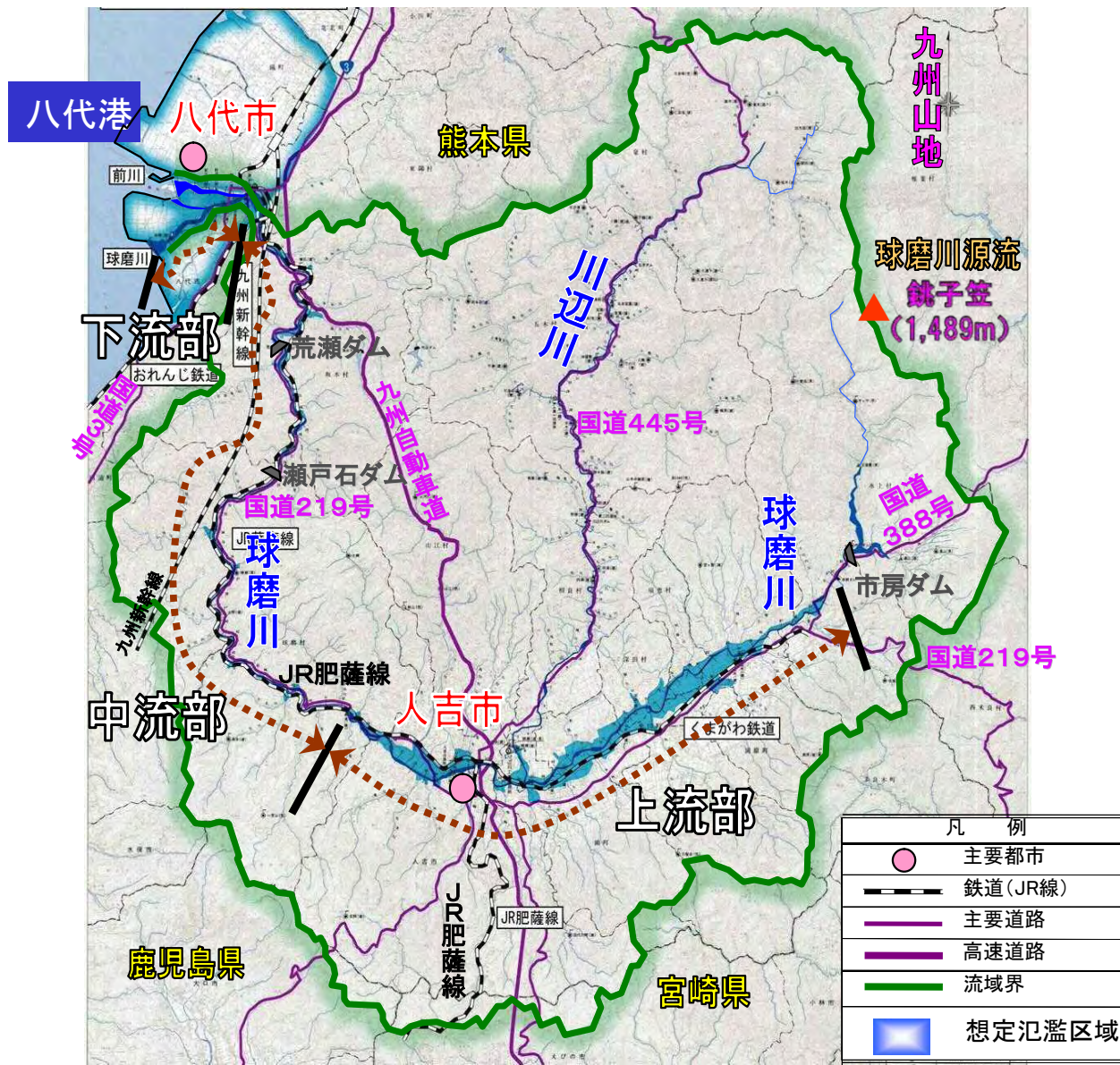
目次

1. 球磨川流域の概要
2. 球磨川下流域の地形特性について
3. 航空写真による河道変遷について
4. 河道縦断形の経年変化について
5. 河道横断形の経年変化について
6. 河床材料の変化について
7. 干潮時の河道(干潟)の現状について
8. 球磨川下流域の水際の現状について
9. 魚類相の現状について
10. 漁業の現状について
11. 河川利用の現状について
12. 球磨川に対する住民の意識について
13. 気候、海水温の経過について

平成25年2月18日
八代河川国道事務所

1. 球磨川流域の概要(地域特性)

- ・球磨川流域の面積は、熊本県土の約1／4
- ・流域内人口は、熊本県人口の約1割
- ・球磨川の下流に位置する八代市は熊本県第2の都市であり、九州の南北を繋ぐ交通の要所
- ・上流部人吉市は九州の小京都と呼ばれる球磨地方の中心都市

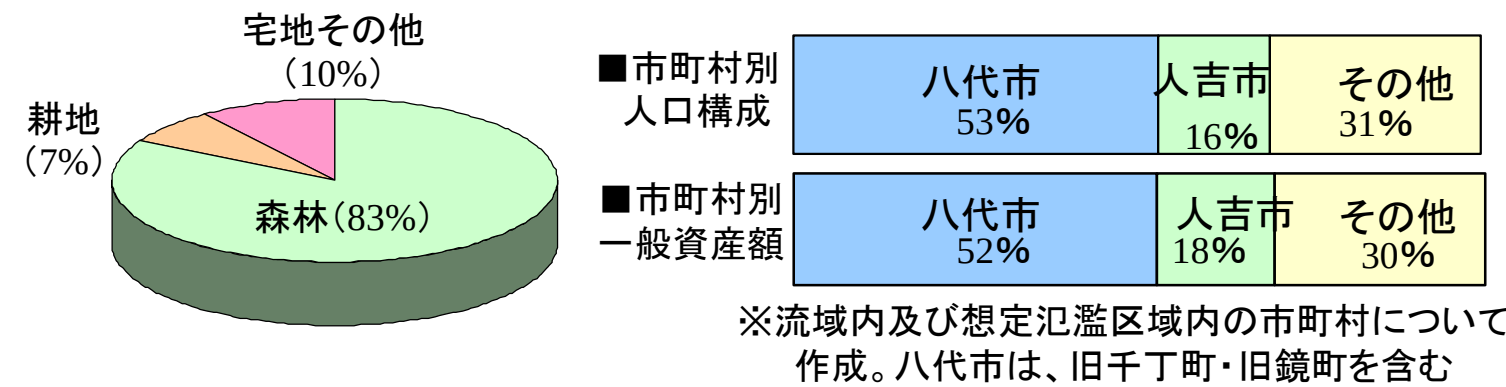


【球磨川の諸元】

- ・流域面積 : 1,880km²
- ・幹川流路延長 : 115km
- ・流域内市町村 : 4市5町5村
- ・流域内人口 : 約14万人
- ・流域内一般資産額 : 約1.8兆円
- ・想定氾濫区域内人口 : 約14.5万人
- ・想定氾濫区域内資産 : 約1.9兆円

土地利用

- ・球磨川流域では8割以上が森林
- ・人口・資産は、下流の八代市及び上流の人吉市に集中



産業

【工業等】

- ・下流の八代市では、球磨川の水を利用した製紙業、金属製品業等の工場が立地。
- ・河口付近の八代港は、重要港湾、貿易港等に指定され、南九州開発の拠点工業港として発達。

【農業等】

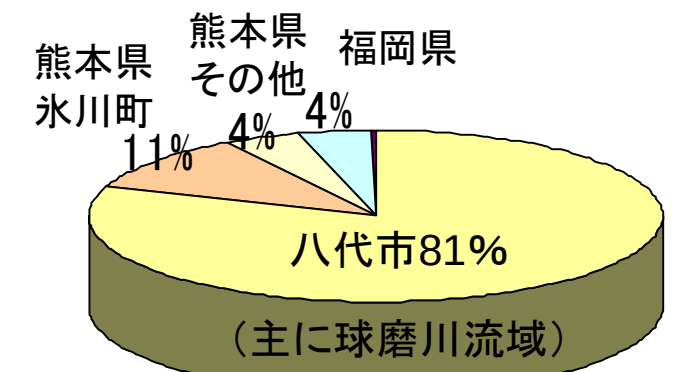
- ・氾濫原の八代平野では、米・イ草の二毛作が盛ん。最近ではハウス栽培が盛んで、トマトの生産高は県内1位。
- ・上流部は穀倉地帯を形成。米焼酎造りが盛ん。

【その他産業】

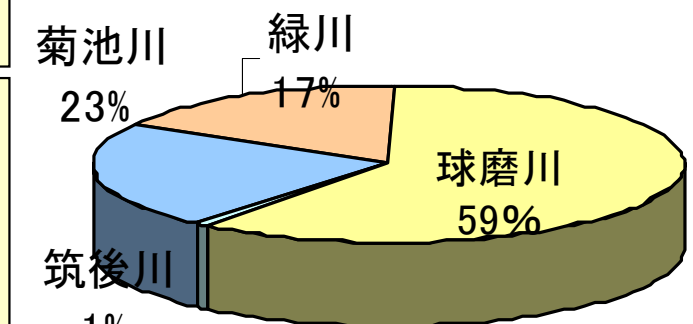
- ・球磨川におけるアユの漁獲量は、熊本県内の約6割を占める。
- ・日本三急流と称され、球磨川下りは全国的に有名。アユ釣り、温泉と併せ、人吉・球磨地方の観光のシンボル。



球磨川河口付近に位置する八代港



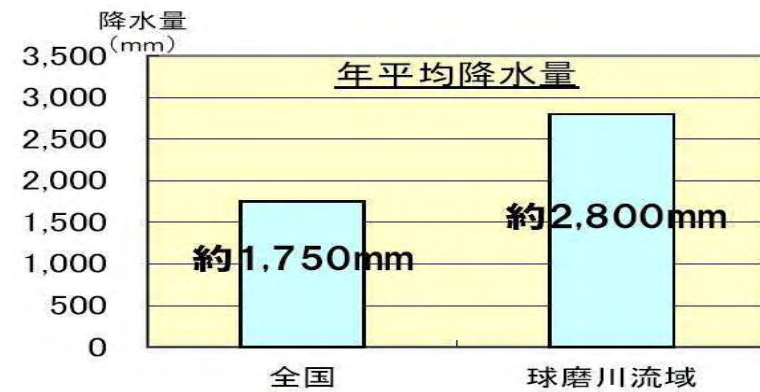
【全国イ草生産割合】



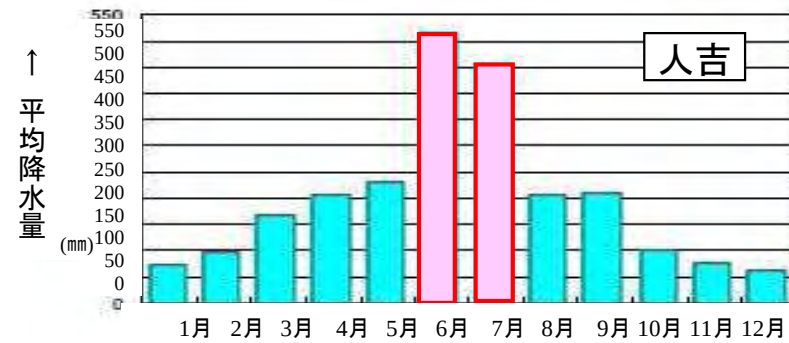
【熊本県アユ漁獲量】

1. 球磨川流域の概要(気候特性)

球磨川流域は降水量が多く、年平均降水量は全国平均の約1.6倍に相当する約2,800mm。



降雨の大半は梅雨期に集中。

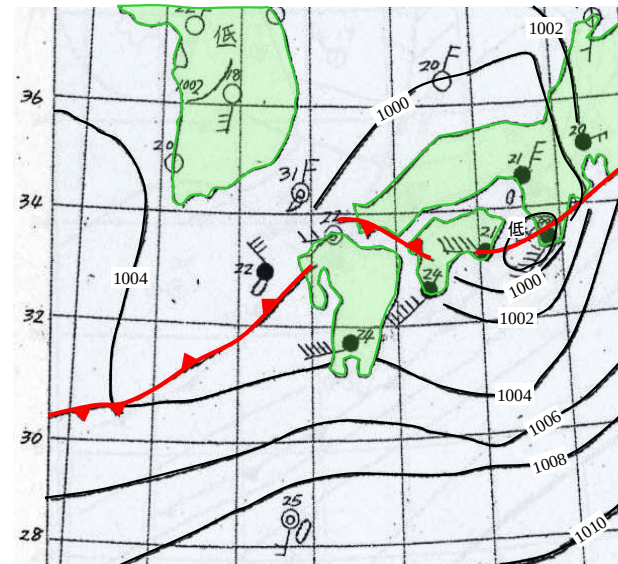


流域図(観測所位置図)

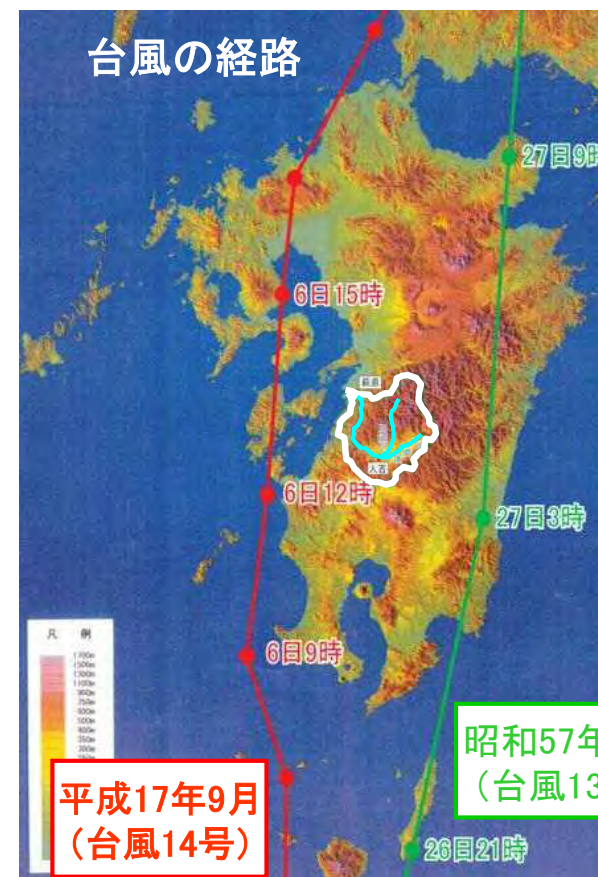


- ①梅雨前線が停滞し流域全域で長期的に降り続き、短時間降雨・総雨量も多い傾向。
- ②台風の北上に伴い、九州山地に接する上流域で降雨が多い。特に、九州の西岸を北上した場合、短時間降雨・総雨量とも多い。一方、九州の東岸を北上した場合は比較的少ない傾向。

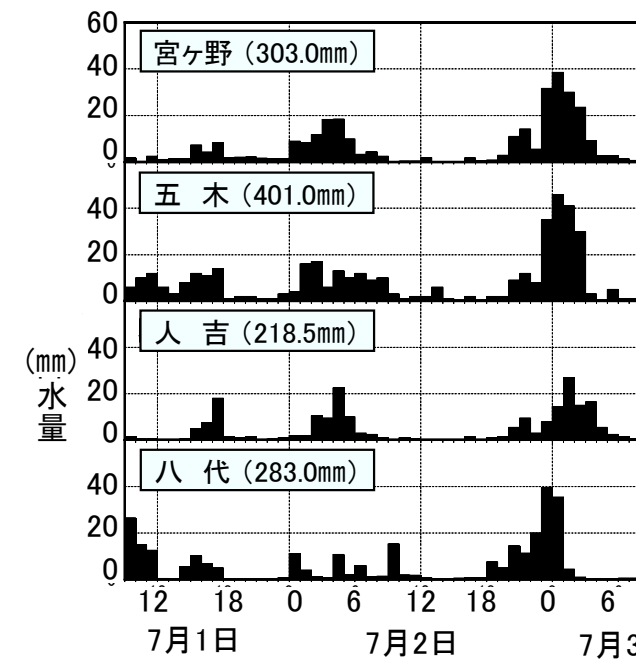
【①梅雨性の降雨状況】
S40の前線の状況
(昭和40年7月3日6時)



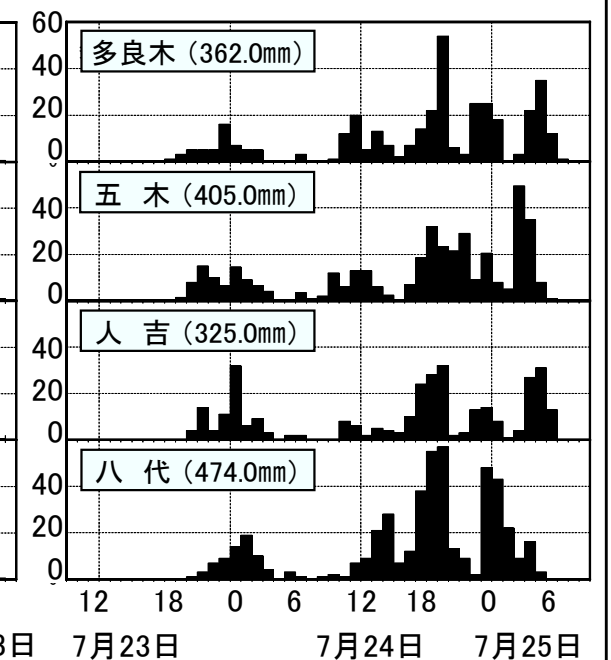
【②台風性の降雨状況】



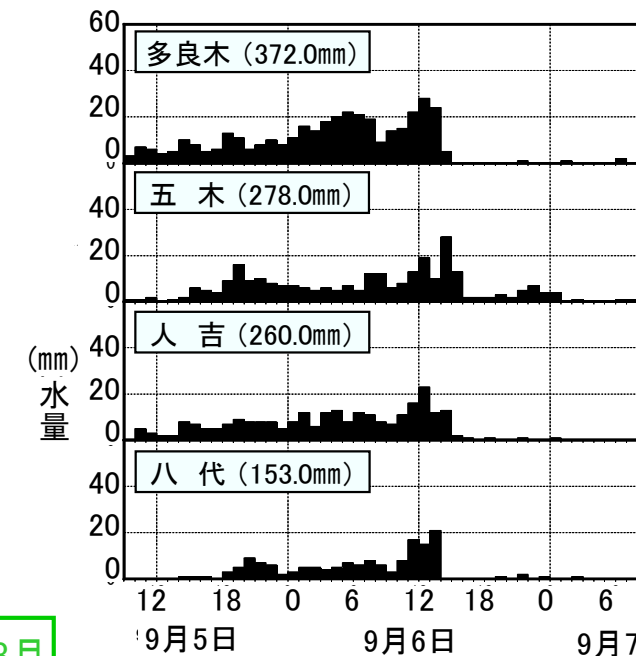
昭和40年7月洪水



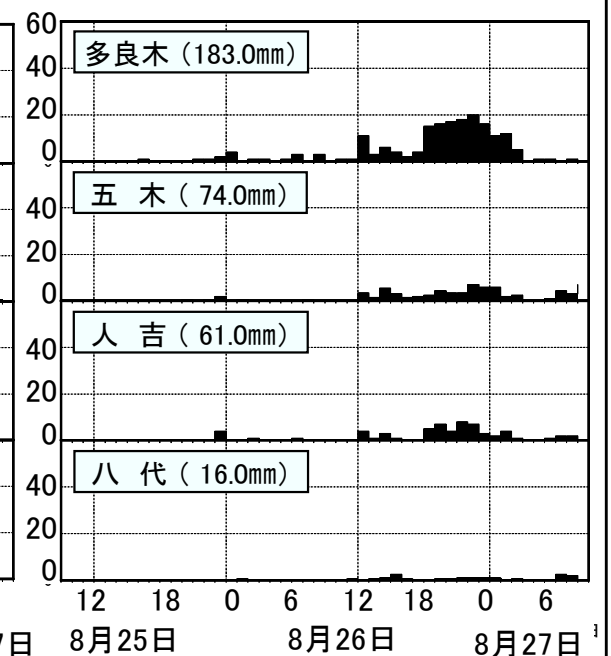
昭和57年7月洪水



平成17年9月洪水



昭和57年8月洪水



※上記の()内は、2日雨量

1. 球磨川流域の概要(地形特性)

①下流(河口)部



○八代海の干満の影響を受け干潟形成

②下流(平野)部



○扇状地／干拓で広がった低平地
○山間狭窄部の出口で大きく湾曲
河床勾配：約1/7,000



③中流(山間狭窄)部

○約43kmの長区間にわたる山間狭窄部
○河床勾配：約1/300～1/1,000

- 流域の地形は、下流部の「河口部」「平野部」中流部の「山間狭窄部」、上流部の「盆地部」「源流部(山地)」に大別
- 人吉盆地で支川川辺川が合流
- 盆地部の末端において川幅が絞り込まれ、その後山間狭窄部を流下
- 山間狭窄部を抜けると扇状地が広がり、遙拝堰付近で流路が北から西へ変化



⑥源流(山地)部



○球磨川源流：熊本県球磨郡
水上村銚子笠(1,489m)

⑤上流(盆地)部



○本川とほぼ同規模の流域面積を持つ最大支川川辺川が合流
○河床勾配：1/500～1/700



○盆地を貫流後、山間狭窄部へ流下

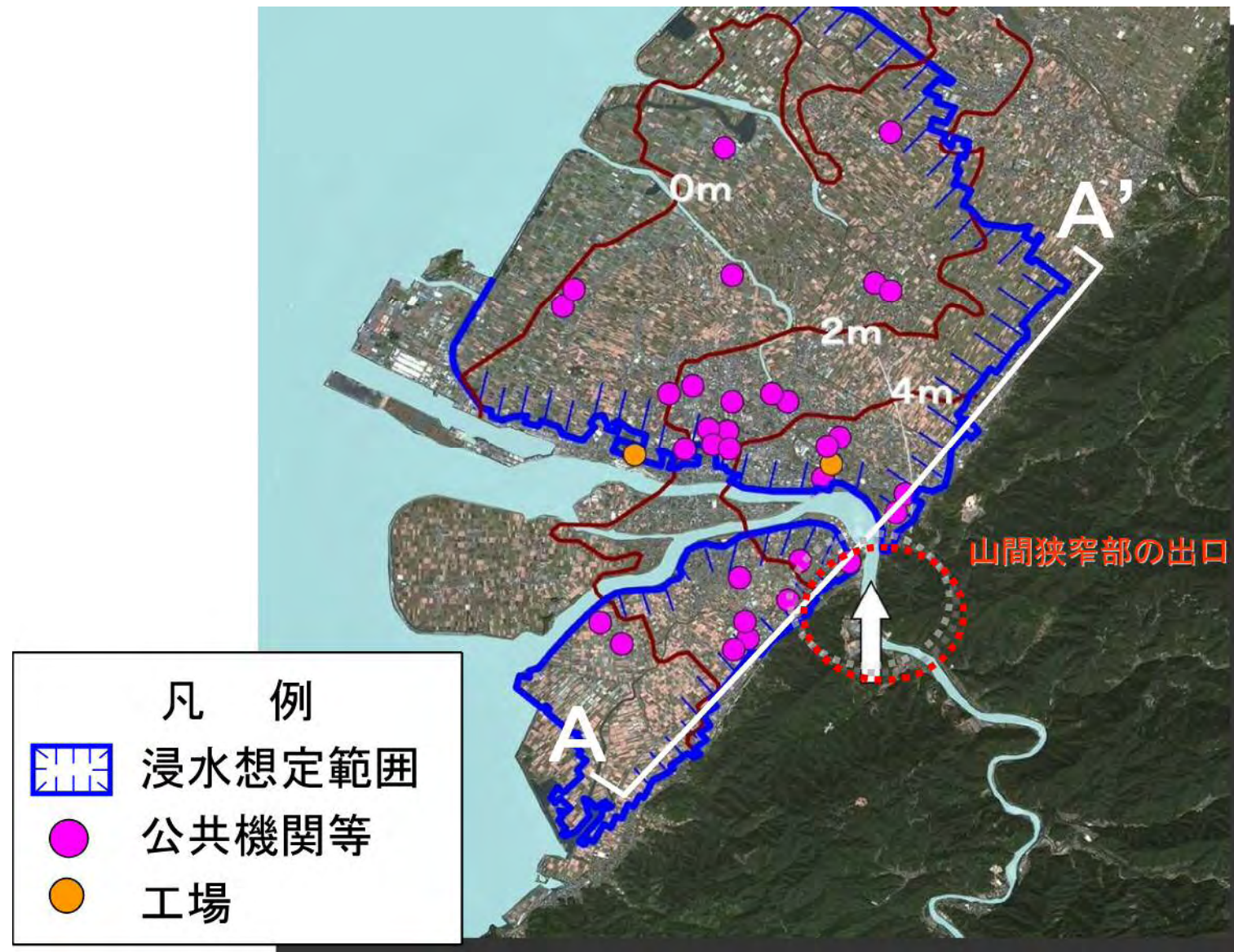
2. 球磨川下流域の地形特性について

球磨川下流域は、熊本県の県南に位置し、熊本県第2の都市である八代市を、球磨川本川、派川前川、派川南川が貫流している。

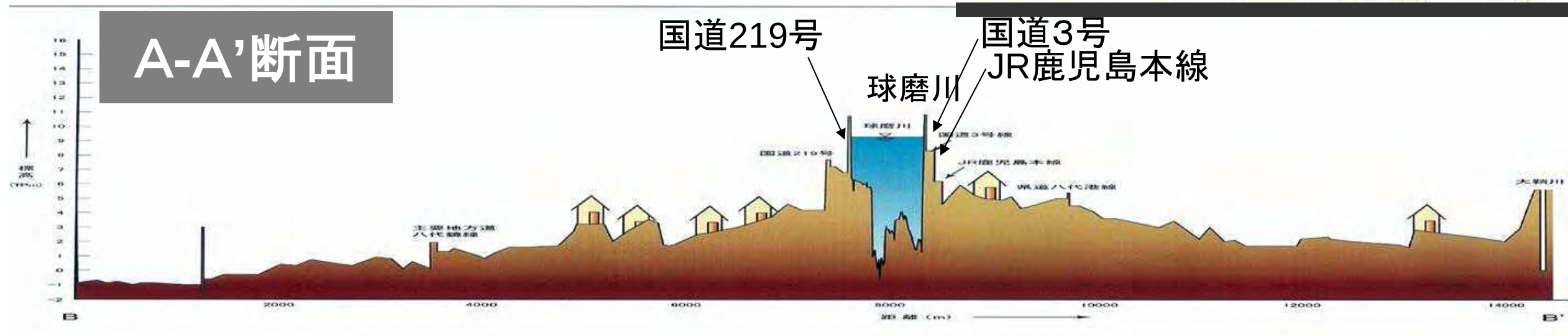
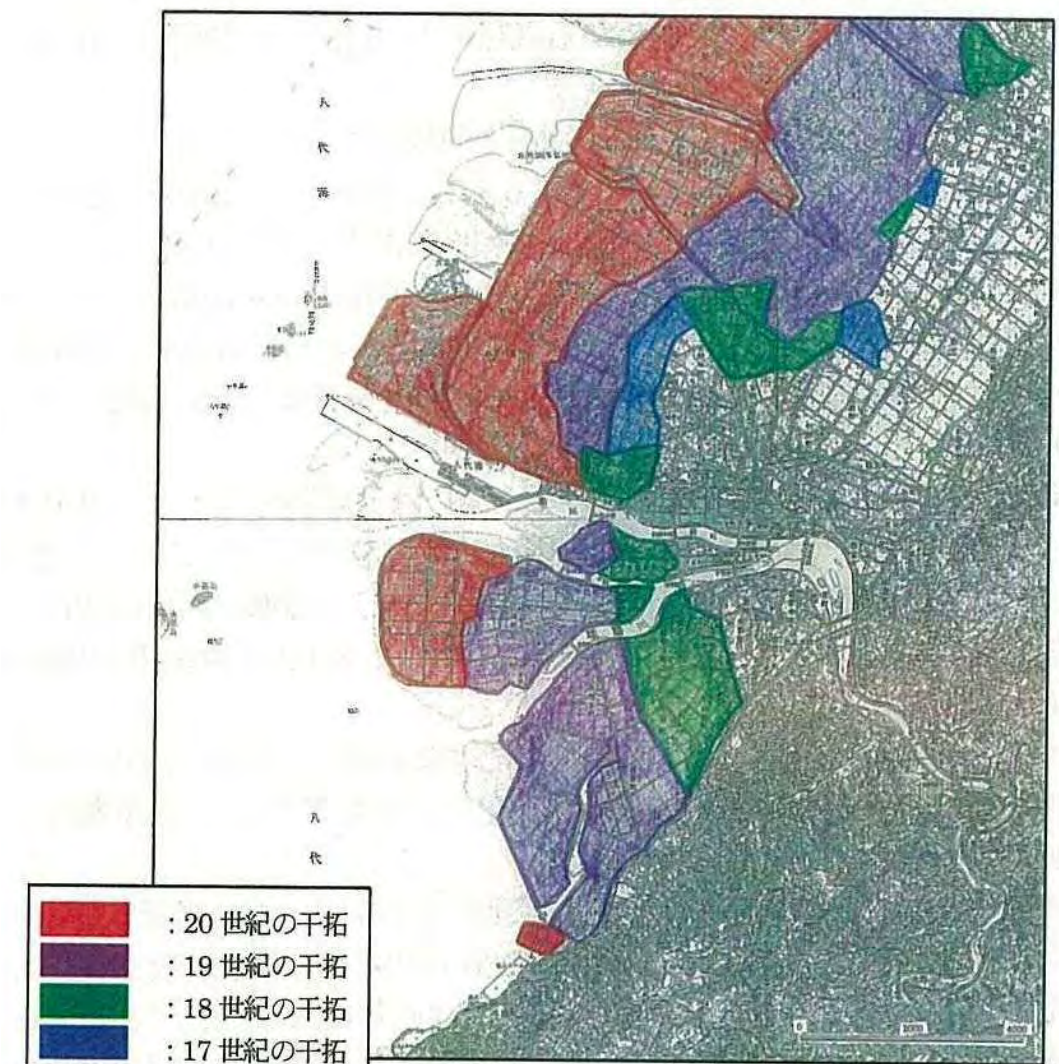
地形的特徴としては、球磨川の流入土砂により、扇状地形が形成されており、河口部には三角州が形成されている。

また、古くから行われた干拓により、その大部分が低平地となっている。

山間狭窄部の出口の河道においては、急激に左方向に湾曲していることにより洪水流が右岸堤防にぶつかる形状となっており、その背後に市街地が控えているという状況になっている。

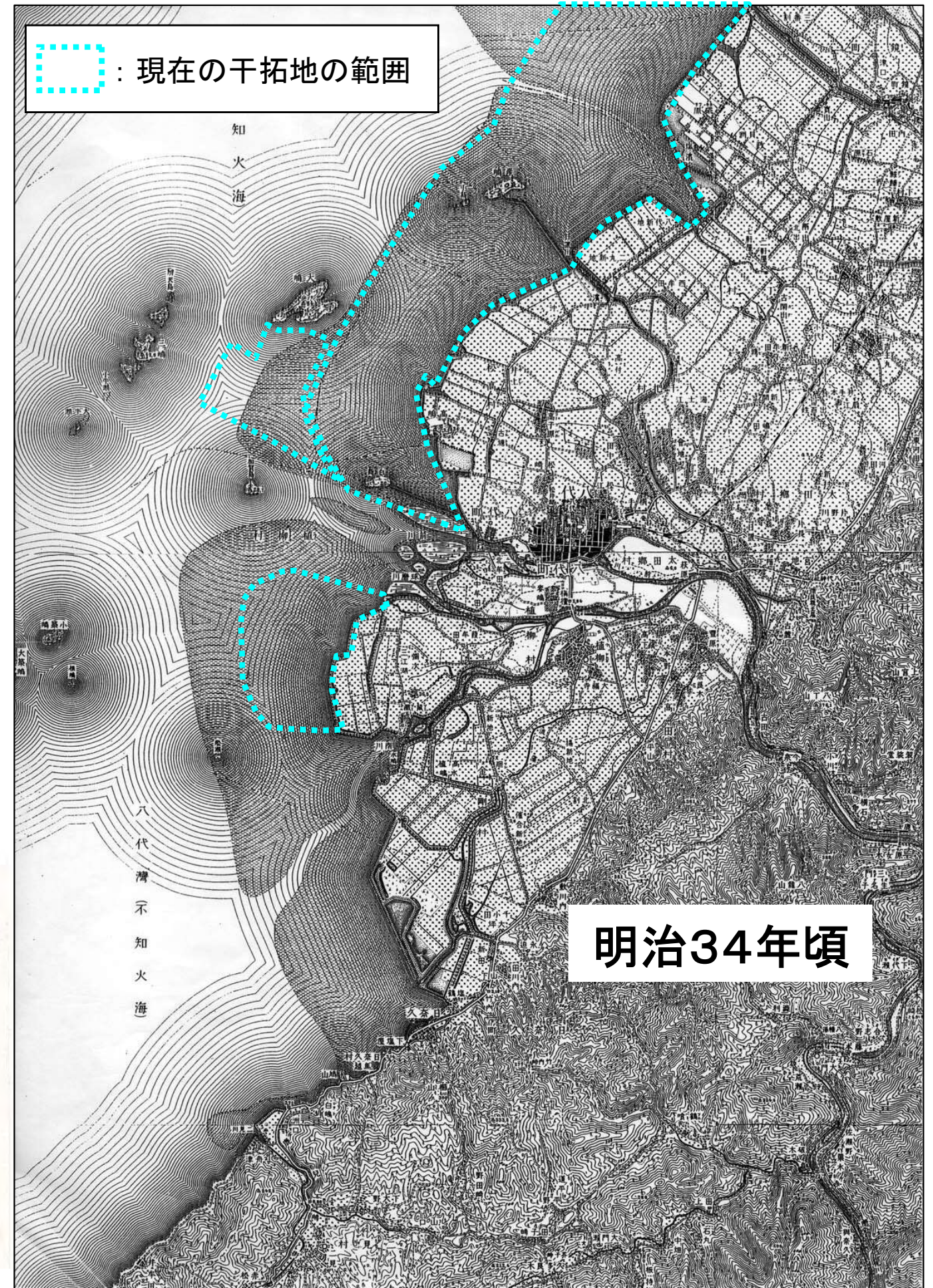
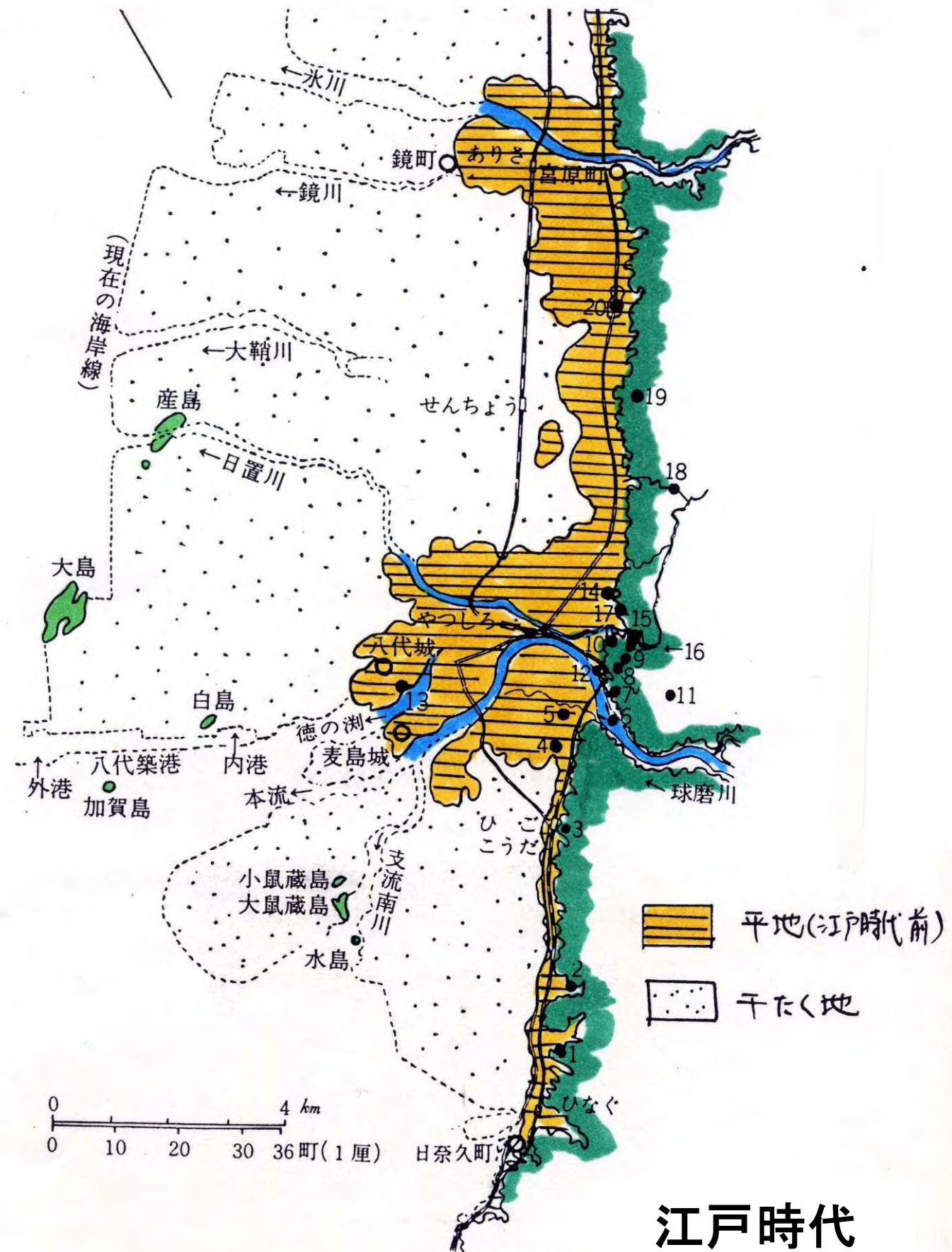


干拓地の変遷



2. 球磨川下流の地形特性について

球磨川下流域に広がる八代平野は、八代海の干満差を利用し、藩政時代より干拓事業が行われてきた。



2. 球磨川下流の地形特性について

